○　みらいちゃんの棚田教室　in 相川小学校　令和８年９月２８日

○　天候不良により稲刈りはできなかったが、耕作者・山本氏から、稲刈りができない理由や稲が倒れている原因について説明を受けた。
○　教室では、田植え・稲刈りの体験に加え、種もみから苗を育てる工程や、収穫後に白米になるまでの流れを学んだ。
○　今年度の棚田教室は今回で終了するが、達者地域づくりの会の活動により、11月には子供たちが植えたお米を「食べる」授業を予定。



山本氏の説明



お米の収穫までの工程の説明





集合写真



食用米・もち米・酒米の比較



ふりかえり学習

棚田から広がる、子供たちの新しい視点

みらいちゃんの棚田教室

in 相川小学校



地域の方のお話から学んだこと

・農作業の中では、草刈りが特に大変なこと
・除草剤を撒くと、傾斜部分が崩れてしまうので、草刈りをする必要があること
・稲作には、水や気温の管理が重要なこと
・このままだと、将来は農家が減り、田んぼが少なくなること

◀「田植え～稲刈り」以外にも、苗を育てる、出荷するなどの行程があることを学びました



お米づくりの工夫と苦労

・苗を植えてからお米が出来るまでに多くの時間がかかること
・田植え、稲刈り以外にも、種から苗を育てることや、稲刈りをしたあとにも、出荷の準備など、たくさんの作業があること
・稲を育てる中で、水抜き（中干し）をしていること

食用米や酒米、もち米などを見比べ、用途によって品種が異なることを学びました▶



10年後も棚田を守るために今できること

・感謝の気持ちをもって、お米をたくさん食べる
・イベントや体験に参加する
・友達や周りの人に棚田の魅力を伝える
・棚田を応援し続ける

◀地図から見えてくる農地の変化
棚田の未来について意見を出し合いました





棚田の未来を考える

田植えや生き物調査、地域の方々との交流を通じて学んできた「みらいちゃんの棚田教室」。相川小学校での最終回となる今回は、天候に恵まれず稲刈りはできませんでしたが、これまでの体験を振り返りながら、棚田の役割や魅力、そして未来について考えました。

子供たちは、棚田がお米を作る場所であるだけでなく、**多くの生き物を育み、地域の暮らしや景観を支える大切な存在であること**を学習しました。さらに、「十年後も棚田で米作りを続けるために、自分たちに今何ができるか」をテーマに、棚田の未来にについて考えを深めました。

受入地域の声（達者地域づくりの会）

棚田教室での活動を通じて、達者の農業を知ってもらえる機会ができ、本当によかったです。

教育現場の声（相川小学校）

田植えや生き物調査など、**現場でしか学ぶことのできない貴重な体験**をさせていただきました。田植え未経験の子どもたちがほとんどでしたが、活動を楽しみながら取り組んでいました。

また、棚田からの景色のすばらしさを味わい、**自分たちの住んでいる地域のよさ**を改めて感じることができました。